

平成25年度 第1回 CCC教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成16年2月6日(木) 18:00~20:00

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 舟生委員、三尾委員、竹熊委員
(事務局) 井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

資料① 平成25年度CCC教育学グループ運営委員会の活動計画

資料②-1 教育学における教育改善モデルについてアンケートの内容

資料②-2 教育学における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査(平成25年8月中央教育審議会資料)

参考2 これからの大学教育等の在り方について(平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料)

参考3 教育振興基本計画(平成25年6月閣議決定資料)

参考4 学びの革命世界が舞台(新聞情報)

参考5 誰でも無料 ネット講義(新聞情報)

参考6 大学の卒業認定 厳しく(新聞情報)

参考7 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について
(平成25年10月教育再生実行会議第四次提言資料)

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の教育学グループ運営委員会の活動計画について

能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方のアンケートを踏まえた見直しを行う。

その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-2によりサイバーFD研究員の先生からいただいた8件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

主な意見と検討内容(検討内容は*で示す)

(1) 教育学教育における学士力の考察の到達目標、到達度について

概ね打倒であり賛同するとの結果が得られたが主な意見と検討を以下に示す。

○ 個々の授業科目において全てを目標とし、全てを到達度とすることは不可能である。従って、例えば、到達度の①~④のいずれかを到達できる、というような文言が必要ではないか。

* 学士力の到達目標なので、4年間を通じて身に付ける力として提案している。

○ 学生の個々人の履修履歴や既習得内容等がすべて異なるので、固定的、形式的な到達目標を立てるべきではない。

* 提案は、統制するようなモデルではなく、各大学が参考にして教育目標、実情に応じて考えていただくものとして提案している。

○ 到達目標2は最終目標に位置づけられるべきではないか。また、到達目標3の時事問題への関心をもたせることは、初年次において必要であると考えます。

* 4年間を通じて身に付ける力として提案しているので順は無いものとして提案している。

(2) 教育改善モデルについて

ファシリテータの育成や学修環境、施設、人員の整備が必要などの意見が寄せられたが、特に見直しが必要な意見はなかった。

(3) 教育力、FD活動と課題について

特に見直しの必要な意見はなかった。

4. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画、参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）等を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間に亘り研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

6. 次回の委員会

日時：12月21日（木）13：00～15：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室